



## 2026年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2026年1月30日

上場会社名 有機合成薬品工業株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 4531 URL <https://www.yuki-gosei.co.jp/>  
 代表者(役職名) 代表取締役社長執行役員(氏名) 松本 清一郎  
 問合せ先責任者(役職名) 取締役上席執行役員(氏名) 石川 大洋 TEL 03-3664-3980  
 配当支払開始予定日 —  
 決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2026年3月期第3四半期の業績(2025年4月1日~2025年12月31日)

## (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第3四半期	11,017	1.6	364	△41.5	318	△45.2	238	△49.4
2025年3月期第3四半期	10,839	21.4	623	28.0	582	19.9	471	32.3

  

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第3四半期	11.06	—
2025年3月期第3四半期	21.74	—

## (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期第3四半期	27,479	13,364	48.6
2025年3月期	26,871	13,106	48.8

(参考) 自己資本 2026年3月期第3四半期 13,364百万円 2025年3月期 13,106百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	0.00	—	9.00	9.00
2026年3月期	—	0.00	—		
2026年3月期(予想)				10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2026年3月期の業績予想(2025年4月1日~2026年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	15,300~ 15,500	1.1~ 2.5	260~ 400	△78.6~ △67.1	180~ 330	△84.2~ △71.0	280~ 390	△68.8~ △56.5	12.97~ 18.07

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2026年3月期3Q	21,974,000株	2025年3月期	21,974,000株
2026年3月期3Q	359,295株	2025年3月期	431,105株
2026年3月期3Q	21,579,097株	2025年3月期3Q	21,694,971株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

※ 添付される四半期財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予測の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「(3)業績予想等の将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想等の将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
(セグメント情報等の注記)	7
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（2025年4月1日～2025年12月31日）におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善やインバウンド需要の増大、設備投資の持ち直しを背景に、緩やかな回復基調で推移いたしました。一方で、米国の通商政策による影響や為替相場の変動がみられたほか、継続的な物価上昇が実質所得を圧迫し、個人消費の力強さを抑制するなど、依然として先行き不透明な状況が続いております。

化学工業におきましては、AI関連材料等の需要が堅調に推移した一方、中国経済の低迷による汎用品の需給緩和に加え、原材料・エネルギー価格の高止まりや物流費・労務費等のコスト増が収益を圧迫しており、引き続き経営環境の動向をより一層注視する必要があると認識しております。

こうした状況下、当社は外部環境の変化に迅速かつ的確に対応するため、中期経営計画に基づく経営目標の達成に向けた諸施策を推進し、重要課題の解決と持続可能な社会の実現に取り組んでまいります。

当第3四半期累計期間の業績状況といたしましては、化成品関係の販売が好調なことから、売上高は前年同四半期比1.6%増の11,017百万円となりました。段階利益につきましては、昨年6月に竣工したアミノ酸製造設備の償却負担増等により、営業利益は前年同四半期比41.5%減の364百万円、経常利益は前年同四半期比45.2%減の318百万円、四半期純利益は前年同四半期比49.4%減の238百万円となりました。

製品区分ごとの販売の状況は次のとおりであります。

(単位：百万円)

	2025年3月期第3四半期累計期間				2026年3月期第3四半期累計期間			
	国内	輸出	合計	構成比(%)	国内	輸出	合計	構成比(%)
アミノ酸関係	1,119	2,854	3,973	36.7	756	2,892	3,648	33.1
化成品関係	1,997	1,813	3,811	35.1	2,059	2,290	4,349	39.5
医薬品関係	2,180	874	3,054	28.2	1,551	1,466	3,018	27.4
合計	5,297	5,541	10,839	100.0	4,367	6,649	11,017	100.0
構成比(%)	48.9	51.1	100.0		39.6	60.4	100.0	

(注) 金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## (アミノ酸関係)

工業用途の販売が減少したことから、売上高は3,648百万円と、前年同四半期に比べ324百万円(8.2%)の減収となりました。

## (化成品関係)

高分子材料等の販売が増加したことにより、売上高は4,349百万円と、前年同四半期に比べ538百万円(14.1%)の増収となりました。

## (医薬品関係)

国内向け原薬の販売が減少したことから、売上高は3,018百万円と、前年同四半期に比べ35百万円(1.2%)の減収となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

### 財政状態に関する分析

当第3四半期会計期間末における各貸借対照表項目の増減要因は、次のとおりであります。

#### (流動資産)

当第3四半期会計期間末の流動資産は、前事業年度末から492百万円増加し、12,998百万円となりました。これは主に、製品、その他の増加と、受取手形及び売掛金の減少によるものであります。

#### (固定資産)

当第3四半期会計期間末の固定資産は、前事業年度末から115百万円増加し、14,480百万円となりました。これは主に、建物、機械及び装置、投資有価証券の増加と、建設仮勘定の減少によるものであります。

#### (流動負債)

当第3四半期会計期間末の流動負債は、前事業年度末から88百万円増加し、8,017百万円となりました。これは主に、1年内返済予定の長期借入金、電子記録債務の増加と、未払法人税等、短期借入金、賞与引当金の減少によるものであります。

#### (固定負債)

当第3四半期会計期間末の固定負債は、前事業年度末から261百万円増加し、6,098百万円となりました。これは主に、長期借入金の増加によるものであります。

#### (純資産)

当第3四半期会計期間末の純資産は、前事業年度末から257百万円増加し、13,364百万円となりました。これは主に、利益剰余金、その他有価証券評価差額金の増加によるものであります。

## (3) 業績予想等の将来予測情報に関する説明

前回発表時の予想と比較し、第4四半期の業績見通しを踏まえて修正いたしました。

売上高は、アミノ酸、化成品、医薬品の三製品区分ともに引き続き好調な需要に伴い、前期に比べて増収となる見込みです。一方、段階利益につきましては、化成品関係において、これまで業績を牽引してきた電子材料向け新製品の需要は堅調なものの、2026年に入り競合他社の新規参入により市場環境が急速に変化しております。これにより、市場価格やシェアが低下し、第4四半期の収益性が大きく悪化する見通しとなりました。

こうした状況下、当社では、好調な他製品の販売強化に加え、徹底した原価低減、販売費及び一般管理費の削減に取り組んでおります。しかしながら、これらの諸施策による効果でも、今期の収益悪化は避けられず、各段階利益とも大幅な減少となる見通しです。

なお、来期以降の収益圧迫への影響を低減すべく、サプライチェーンの強化を含めた抜本的な収益構造の改革にも着手しております。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (2025年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2025年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	973	1,012
受取手形及び売掛金	3,779	3,028
製品	5,538	6,253
仕掛品	250	231
原材料	1,881	1,804
その他	82	669
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	12,506	12,998
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	2,130	3,250
機械及び装置（純額）	2,901	3,944
土地	3,110	3,110
建設仮勘定	2,203	25
その他（純額）	1,637	1,588
有形固定資産合計	11,982	11,919
無形固定資産	137	101
投資その他の資産		
投資有価証券	2,047	2,355
その他	197	103
投資その他の資産合計	2,245	2,459
固定資産合計	14,365	14,480
資産合計	26,871	27,479
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,361	2,398
電子記録債務	349	443
短期借入金	3,600	3,520
1年内返済予定の長期借入金	612	894
未払法人税等	153	—
賞与引当金	154	79
設備関係電子記録債務	69	44
その他	627	636
流動負債合計	7,928	8,017
固定負債		
長期借入金	3,943	4,199
再評価に係る繰延税金負債	618	618
退職給付引当金	1,089	1,073
資産除去債務	13	13
その他	171	192
固定負債合計	5,836	6,098
負債合計	13,765	14,115

(単位：百万円)

	前事業年度 (2025年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2025年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,471	3,471
資本剰余金	3,250	3,250
利益剰余金	5,449	5,475
自己株式	△124	△103
株主資本合計	12,046	12,092
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	909	1,120
繰延ヘッジ損益	0	△0
土地再評価差額金	150	150
評価・換算差額等合計	1,059	1,271
純資産合計	13,106	13,364
負債純資産合計	26,871	27,479

## (2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期累計期間 (自2024年4月1日 至2024年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自2025年4月1日 至2025年12月31日)
売上高	10,839	11,017
売上原価	8,654	8,953
売上総利益	2,185	2,063
販売費及び一般管理費		
役員報酬及び給料手当	362	407
賞与引当金繰入額	16	17
研究開発費	395	461
その他	786	813
販売費及び一般管理費合計	1,561	1,698
営業利益	623	364
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	45	56
雑収入	17	20
営業外収益合計	62	77
営業外費用		
支払利息	50	106
支払手数料	42	13
為替差損	9	0
雑損失	2	2
営業外費用合計	104	123
経常利益	582	318
特別利益		
受取保険金	65	—
特別利益合計	65	—
特別損失		
固定資産除却損	55	31
特別損失合計	55	31
税引前四半期純利益	591	286
法人税等	119	48
四半期純利益	471	238



(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用の計算

税金費用については、当第3四半期会計期間を含む当事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じることにより算定しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第3四半期累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)

当社はファインケミカル事業のみの単一セグメントであるため、記載を省略しております。

II 当第3四半期累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)

当社はファインケミカル事業のみの単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
減価償却費	745百万円	1,058百万円